

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、27～30℃台を示し、かなり高めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――月夜間と台風の影響で漁獲日数が少なかった。西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり3トンの水揚げで、前週の27%（前年を下回った）。北松南部地区では、マイワシなどが1日1統当たり11トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。
- イカ釣――ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり40kgの水揚げで前週の41%（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり2.7トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。
- 定置網――対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり25kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり457kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり147kgの水揚げで、前週の6倍（前年を上回った）。
- トビウオ船曳――北松生月地区では船曳網漁が始まり、丸トビ・小トビ主体で1日1統当たり61kgの水揚げがあった。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（8/25～8/31の7日間）沖合イカ釣り船（船凍船）は、能登半島沖、佐渡沖及び山形沖で操業。赤イカは北太平洋に出漁。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐海峡～鳥取沖～能登半島沖～山形沖にかけて出漁した。

鳥取県西部（沖合船）3日延3隻、総計73箱、1航海最高39箱、平均24.3箱。ケンサキイカを中心に漁獲、魚体は2～3立主体。漁場は壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐海峡～鳥取沖～能登半島沖～山形沖に形成された。今期も主漁場は山口沖となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第2-22号 6県ケンサキイカ情報（令和2年 第3号）」を公表しました。

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>